

実施日：1月15日（5校時）	
領 域：特別の教科 道徳	
取組名：きめつけはやめよう （資料「だれにでも」（小学校中学年用教育資料『ほほえみ』（令和5年度版））	
対 象：4年生	実施場所：4年1組教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 先入観や固定観念を見直し、誰に対しても公正、公平な態度で接しようとする意欲を育てる。 ・ 外国にルーツをもつ人や様々な人たちへの決めつけや偏った見方があることに気付き、誰に対しても公正、公平に接しようとする態度を育てる。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの思考を広げやすくするためにTTによる授業を行う。T1が「ぼく」、T2が「アリーヤさん」の気持ちを聞いていく。それぞれの視点で問いかけをすることで、児童の思考が混乱しないようにする。 ・ 中心発問『ぼくは「あ、そっか・・・」とそれ以上言葉が続かなかったぼくは、どんなことに気付いたでしょう。』では、気付いた理由について考え、話し合いによって先入観や固定観念を見直し、誰に対しても公正、公平な態度で接するよさに気付かせる。 	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 教員や保護者が参加して、各町で課題解決に向けた人権学習を行う。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行う上での工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月、校内研修で話し合い活動の共通目標を校内で設定している。特に、相手が話していることをしっかりと聞き、会話をつなげていくことに力を入れている。グループ対話などを活用し、様々な意見を受け入れ、自分の考えを広げさせている。 ・ 事前研修として、全職員で指導案の検討を行う。 ・ 部会研修で模擬授業を行い、検討する。 ・ 事後研修として、道徳における効果的なTTの入り方や、中心発問での児童の反応や本時のねらいにせまれたか等の話し合いを行う。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発言 ・ ふり返りシート[別紙②] 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入では、決めつける側、決めつけられる側の両方の立場に触れることによって、資料に入りやすくなった。 ・ グループトークでは、ワークシートに書いたことを発表するだけでなく、発言した子に質問したり、決めつけや思い込みをしないためにはどうすればいいかをグループで考えたりすることができ、対話を重視した取組の成果を感じた。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 偏った一部の情報があたかも全体のものであると決めつけるのではなく、個に目を向け、その人を取り巻く状況や人となりを知り、その上で物事を判断しようとするのが公正、公平な態度である。小学校生活6年間でこの態度を育成すると考えると、4年生の段階では、公正、公平な判断をするための基になる「その人を取り巻く状況や人となり」を「知る、知ろうとする」態度を育成することが必要であると判断した。希望通りの結果が出なくても、そこに公正、公平さがあればよしというところだが、子どもたちの発達の段階では理解するのは難しいところである。実際、「アリーヤさんに悪いことをした」「相手が嫌がることはしないようにしたい」といった意見や感想も多数出てきた。しかし、多くの児童は「知る」ことは必要であると気付いてはいる。今後は、いかにそれを公正、公平な態度へと繋げていくかが課題といえる。 	